



これから始まる 「全日本」ブランドの再構築

2017年6月17日（土）O-Forum
プロマッパ&イベントプロデューサー
NishiPRO 西村徳真

自己紹介

- 西村徳真(NishiPRO)
- 1985年生まれ31歳
- 京大OLC出身
- インカレミドル2006優勝他、インカレのメダルたくさん
- 会社員を経て2012年NishiPROとして独立。現在ほぼオリエンテーリング専門業者
- 創業5周年。今年度で6年目です。



今年の全日本は
いつもと違います

経緯を整理してみましよう

- ・ 3年前の菅平、地図の不備による提訴が2件提出され、禍根を残した。
- ・ これを機に全日本改革のためのワーキンググループが発足
- ・ その結果、常設実行委員会および全日本プロデューサーの設置が決定
- ・ YMOE山川氏がプロデューサーに就任
- ・ **今年がその新体制での第1回大会**



そもそも、

なんで全日本大会を
改革せなならんの？

学生の意識変化

昔の学生

「インカレと全日本には行こう！」



今の学生

「全日本？なにそれおいしいの？」

全日本は学生の支持を急速に失っています。インカレと比べてどうしてこんなに差がついてしまったんでしょう？

インカレの運営

- ・ インカレに参加して、たくさんの思い出をもらった学生が、OB・OGになって運営に回り、さらに良いイベントにしようと奮闘する
- ・ 山川さん、木村さんなどインカレの継続を見守ってきた大人たちの力
- ・ 大学の対抗戦であり、そもそも学生クラブは共に活動する時間が長く、クラブの結束を高められる環境にある。

全日本の運営

- ・ 県協会の運営であり、テレインの質、運営レベルに差が大きい
- ・ 全日本のイベントを見守る人が誰もいない。地方に任せてそれっきり。
- ・ あくまでも個人戦であり、クラブの結束に繋がらない。

まとめると

- ・ インカレは**熱意・理念**を共有し次代へ引き継ぐ仕組みを構築できたが、全日本はそれに失敗した。

→全日本の建て直しが必要



今年の全日本
何が変わった？

たとえば

- ・ 人の集まりやすい関東で、学生にとっては春インカレの直後よりもずっとましな日程で開催される
- ・ インカレ予選（北東・北信越）と併設された
- ・ 35歳以上クラスを日本マスターズ選手権と定義した（プログラムで発表）
- ・ B, Cクラスを手厚くした

信じられない話ですが

山川氏主導の運営なのに、

- ・ プログラムが10日前に発表されている！！
- ・ もう地図もコースも完成している！！

→他にも事前広報の数や地元連携など、山川氏の力の入れ具合がわかる事案がたくさん。

やっぱり

・ 常設委員会・プロデューサーという形で、責任をもって全日本大会にあたる部署・人間が生まれたというのは非常に大きい。

→ 熱意・理念の共有・引き継ぎの第1歩を踏み出した歴史的な機会になる

とはいえ、

疑問が残る方策も多々。

- ・ルールを捻じ曲げて(*)まで、6月に開催してまで、セレ併設にこだわった意味あったの？（セレ利用は北東・北信越のみ。関東は却下）

※: 20Eに出れる人が出れない等々

- ・プレ全日本におけるE権のルール変更はどうか？
- ・プロデューサーがこれだけタダ働きしてて継続性あるの？
- ・広報文読みにくいなあ

→今後、再検討が必要。



これからが本番です。

他にも、変えないといけないことは山ほどあります

- 個人戦では求心力に乏しい。インカレ同様クラブの一体感を醸成できる施策が必要？
- 公認大会が少なすぎてE権が取れない。全日本予選の再定義、公認大会改革が必要？
- ロングだけでなく、全日本ミドル・スプリントの求心力向上も大きな課題。



西村の野望

全日本4種目全体で設計しよう

- **全日本ミドル&ロングの2日間大会**

→King of Forestを決める2日間。ロングはマスターズを兼ねる。
同一地図を使いまわすことで財政面の課題を解消。

- **全日本スプリント&7人リレーの2日間大会**

→毎年全日本スプリントを7人リレー運営陣が立候補することで、既成事実化させたい

- **全日本リレー**

→交流とスポーツツーリズムの祭典として現行のまま継続。補助金も降りるし、何とかなるやろ。

全日本の予選を設計しなそう

- **公認E権は廃止。全日本E権に一本化**

→ただでさえ少ない公認大会、多くはない競技人口。2段階にする意味は乏しく、全日本を遠ざけるだけ。

- **全日本E権を定数とし、学生枠と一般枠に分ける。**

→人数がある程度居ないと盛り上がらないし選手の目標にしにくくなる。

- **学生枠の予選はインカレを利用。**

→学生最大の目標大会が全日本に繋がらないのはおかしい。枠の配分は全日本大会の結果を受けて偏りが出ないように調整。

- **一般枠の予選は全日本実行委員会が大会・クラスを指定し、各大会に数名ずつ配分。**

→幅広い大会から選択できるのが望ましく、公認大会の規制緩和が必要で、さらには指導者資格体系も修正が必要かも。

クラブ対抗要素を入れよう

- 全日本ミドル&ロングの2日間大会において、クラブ表彰を実施。

→規定時間以内完走全員に1p, 上位半分に3p, 入賞・優勝に15p, 30pとポイントを付与し、合計数を競う。

→そもそもJOAの規定にクラブの定義がない。7人リレーで実施するように、何かしらの明文化が必要。

私が強く求めたいこと

- 頑張ってる選手に対して失礼のない大会を！！

こんな大会はいやだ

- 全日本ミドル・スプリントは現状、地方大会の客集めの道具でしかなくなっている。
- そもそもルール上「なくても問題ない」大会？？それならやらない方がよい
- 過去の全日本大会はレインが高度な競技性を確保できるかどうか軽視されていた

最後に

- 頑張った選手が祝福される、オリエンテーリングが速いことが尊敬の対象となる。そんなスポーツとして当たり前の世界を作っていきましょう。
- 今年ようやくそのための土壌ができました。今回の山川さんの頑張りを生かすも殺すも我々次第です。

おしまい